

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100267		
法人名	カルミア株式会社		
事業所名	グループホーム咲花 唐山		
所在地	愛知県名古屋千種区唐山町一丁目41番地		
自己評価作成日	令和3年11月22日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	令和3年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者様、職員が笑って過ごせるように、毎月1回は、季節の行事やイベントを開催、その様子をホームページに掲載し、コロナ禍で面会できない期間も、ご家族様に様子をお伝えできればと、取り組みました。</p> <p>・職員のスキルアップとして、施設内研修を月1回ペースで開催しています。外部開催の研修も多くの職員が自発的に参加し、認知症の理解を深めて、日々のケアに生かしています。</p> <p>・毎週日曜日には、施設周りの環境整備のため、草むしりや清掃を行なっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム内は清掃が行き届き明るく開放的で、職員と利用者が協働で制作した季節の飾り付けが目を引き、居心地の良い生活空間である。利用者は趣味の塗り絵をして生きがいを持って生活したり、室内レクやおやつレク等楽しみの時間を持ち、理念の中にある「笑顔」のある時間を過ごしている。</p> <p>職員育成に力を入れ、年間研修計画に添って認知症ケアや身体拘束防止、介護技術向上、接客マナー等、様々な内容の研修を実施して職員の質の向上に繋げている。</p> <p>今年度はコロナ感染対策で地域行事の参加等がなく地域住民との交流が持てなかったが、毎週日曜日に自発的に地域清掃を実施したり、住民からの介護相談に随時応じて、地域に貢献し認知症専門施設として根差している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑って暮らそう、仲間だよね。」の理念は、各フロアをよく見える位置に貼り、職員一同、共有し、楽しく毎日を過ごして頂けるよう励んでいます。	日頃より職員がまず笑顔で接し、利用者一人ひとりが穏やかに笑顔でいられるように努めている。理念が職員全体に浸透し、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦により、地域の祭りや保育園児との交流などが、中止となり、直接的な交流はありませんでしたが、地域の方とは、施設周りの清掃時、通勤途中や玄関先で、気軽に声をかけて頂くなど、良好な関係を築いています。	昨年度に引き続き、地域行事の見合わせている。自治会とは回覧板を通じて交流を図っている。毎週日曜日はホーム外周の公道の清掃を行い、地域貢献に繋がっている。その際には住民と挨拶を交わしたり声を掛けてもらう等、密接な繋がりも持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講座を開催することは、できませんでしたが、個々に認知症についてやグループホームについての質問や問い合わせには、丁寧に対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナ渦のため、運営推進会議を開催できず、FAX等での施設の運営状況を報告するにとどまりました。	運営推進会議は社内にて隔月開催し、運営報告を中心に話し合いの場を設けている。議事録はいきいき支援センター担当者、訪問歯科、近隣住民等の構成員へFAXで通知する他、ホーム入り口で面会時家族が閲覧できる様にして周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は、電話や直接、区役所に出向いて相談しています。	区役所には、介護保険更新手続きや生活保護者の相談や書類提出等で出向く機会があり、何かあれば直接相談して関係性を築いている。利用者の状態が変化した際は、介護保険見直しの相談をして区分変更を実施した。より良い運営ができる様に、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で、身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、年2回の施設内研修を開催し、職員全員に周知徹底を行っています。	年間の研修計画にアンガーマネジメントや不適切なケア等の身体拘束に関する研修を取り入れている。管理者は、普段接する際の声掛けや対応でも都度指導したり、チェックリストを用いて職員全体に身体拘束への認識を深めている。安全対策で玄関は施錠し、転倒防止のセンサーの設置やベッド柵は家族の同意の下に実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入社員には、必ず虐待についてのチェックリストを読んで学んで頂いています。年2回の研修が現場で生かされるよう、注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の施設内研修には、入れていないので、来年度には、研修を行いたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者である施設長が、利用者・ご家族様に説明し、理解して頂けるように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族様と気軽に意見交換できるような関係づくりに努めています。	家族とは何かあれば電話で近況を報告したり、面会時に話をして信頼関係を築いている。生活物品の補充や衣替え、外出などは、家族と連携を図り実施している。利用者の要望は普段の会話から把握し、フロアー会議で検討しサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、リーダー会議や各フロア会議を開催し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映しています。日常的にも、気軽に話を聞いています。	年2回、社長との面会があり、意見や要望を把握して働きやすい環境作りに努めている。管理者は普段から職員の様子を見て、その都度話を聴く機会を設け良好な関係性を築いている。職員の意見や要望はフロアー会議で検討して、意見を取り入れている。有休の希望も勤務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職員の悩み、要望、意見、問題等がないか、個々に聞くように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を利用し、個々のレベルアップを図ると共に、現場の中で、注意点や改善点を話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦の中、直接的な交流は、できませんでしたが、電話等でのやりとりは、できました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族様の話を良く聞き取り、書面にまとめ、事前情報を共有し、安心して過ごして頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談より、ご家族様のお話を伺い、質問に答え、その後、不明な点や質問等があった場合は、連絡下さいと伝えています。来所時には、気軽に会話できるような関係づくりを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談や、契約時には、本人の好きなこと、家族の希望等を聞き、その時々に必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることは、職員と一緒に行うよう取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族様の関係を大切に、ご家族が行って頂けることは、協力してもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦の中、直接的な交流は、できていませんでしたが、面会が可能になってから、少しずつ交流されています。	電話の取次ぎ、手紙や年賀状のやり取りをして、親族や知人等の馴染みのある人との途切れない関係継続に努めている。墓参りや通いなれた床屋や美容室への外出は家族と連携して外出を叶えている。遠方から親族が面会に来所した際は、居室でゆっくり過ごす事もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流は、日常的に行われていますが、認知症状が進行している方が、みなさまと交流できるよう、職員が間に入って、コミュニケーションをはかる場面もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、相談などの連絡がある場合は、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族とコミュニケーションをとり、可能なかぎり、本人の希望に添えるよう努めています。	日々の関わりのなかで直接本人から聞き出し希望に添えるように努めている。意志疎通が困難な場合は何度も声掛けてふとした仕草や表情から思いや意向を汲みとり、申し送りやフロアー会議で職員同士共有し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや利用者、ご家族様との会話の中から、入居前の生活歴を共有し、記録しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、個々のペースで過ごして頂けるように配慮し、ご本人のできることは、楽しんで行えるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われるフロアミーティングで、利用者の状況等を話し合い、共有することで、介護計画に反映させている。	モニタリングは半年毎に行なっている。フロアー会議で利用者の状況や気付き等職員間で話し合い意見を集約し、介護計画が作成されている。又出来るように実践しましょうと言う目標を職員が共有しプランに反映されている。必要に応じ介護計画は見直しされる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化でも、経過記録に記載し、日々の申し送りでも情報共有しています。フロアミーティングでの利用者のケアに対して見直しや確認を行い、計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな一日の流れは、決まっていますが、その時々に応じて、ケアの方法を変えたりし、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦の中、地域資源の活用は、困難だったため、行えていません。今後の課題とします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	FAXで、往診前情報をおかかりつけ医に情報提供し、往診後は、その日のうちに、各フロアスタッフと情報を共有し、ケアに反映しています。	入居時協力医に移行になる。月二回協力医、訪問歯科往診を受けている。又歯科衛生士は毎週訪問し口腔ケアや職員の指導を行っている。必要に応じて皮膚科、眼科の往診も受けている。受診の付き添いは基本家族だが、職員対応の支援も行っている。週一回訪問看護師の健康チェックで協力医、職員で連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携で、利用者の急変時に連絡し、必要な時は、駆け付けて頂いている。毎週1回の訪問健康チェック時には、体調の変化等の報告をし、対応や処置の方法など、アドバイスを貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを作成し、入院した利用者が、環境の変化に少しでも馴染んで頂けるように支援しています。早期に退院できるように、訪問看護師、かかりつけ医に状況報告を行いながら、入院先の担当者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケア・看取り研修を施設内外で受けながら、利用者、家族、かかりつけ医、訪問看護師、フロアスタッフ、管理者とその都度、話し合いながら、支援に取り組んでいます。	入居の際にホームの方針を説明し文章で同意を得ているが、段階毎に家族の意向を確認している。「終末期ケア、看取り研修」を実施し今年度は看取りが行われている。その際には協力医、看護師、家族、職員で連携し支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修会で、スキルの向上を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	被災訓練等を年2回行っています。	被災訓練を4月、10月に行い消化器の使用訓練も実施している。職員は避難経路を理解しているが、年明けに改めて消防署員から指導を受ける予定となっている。備蓄品として水、食料、カセットコンロ、衛生用品等備えている。地域との協力体制も少しずつ進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けているが、職員全員で、今一度、振り返る必要があります。	利用者を人生の先輩として敬い、配慮ある声掛けや対応に心掛けているが、日々の支援のなかで出来ない場面に遭遇した時はその場で指導したり、会議で話し合っ共有している。申し送り時利用者は部屋番号で報告されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の会話の中で拾い上げたり、表出できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせるよう、日々努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣は、できるだけ本人の希望に沿うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調子のよい時は、利用者と一緒に、調理の下ごしらえや食器拭きを行っています。	食材は週5日配達されメニューは決まっているが、行事食の時は変更しちらし寿司、手作りピザ、フライドポテト等好みの物を作っている。出来る人には野菜を洗ったり、食器拭き等を手伝って貰っている。食事は職員と利用者が同じテーブルで「食」を楽しんでいる。又ムース、刻み食を利用者に合わせて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、毎日把握しており、毎日の申し送り時に、通常と違う場合は、ほかに変化ないかを観察し、報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科指導の下、食後の歯磨きを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が可能方が、継続して行えるよう、立ち上がりできるように足腰の筋力を維持できるよう、立ち上がりの生活リハビリを継続している。」	利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を確認しながら昼間は定期的にトイレ誘導を行っている。自立の人も見守りや失禁のチェック等を支援している。夜間は睡眠の様子をみながら声掛け、見守り、定時のパッド交換やオムツ交換する等利用者其々に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の状況を把握し、不足している時は、好みの飲み物を提供して、飲んで頂けるように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置上、午前入浴となっていますが、どうしても難しい時は、本人の希望に合わせています。	基本週三回午前に入浴している。季節を感じて貰えるように柚子湯、菖蒲湯を提供している。拒否の人には無理強いせず時間や職員を変えて上手に対応している。介護度の高い人は浴室温度を利用者に合わせ足浴しながらシャワーチェア対応となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床は、利用者の希望に応じて、対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬は、毎回、処方箋が付いてくるので、各利用者ごとに、個人ファイルにとじて、情報を共有しています。変化があった時は、申し送りで報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の体操やゲーム、洗濯物のたたみ、みなさんが喜んで、行えることは取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の中、希望に添えないことが、多くありましたが、ご家族の協力で、馴染の美容室や床屋に行くことができました。	コロナ禍で外出の機会が減り、家族の協力の下馴染みの美容室、床屋、病院受診、散歩等に出掛けている。春の花見はドライブで車窓からとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は、ご家族と相談して、お財布にお金を入れてあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望される方は、事務所にて、電話をかけてもらっています。ご家族からの電話も取り次いでいます。手紙等も同様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が清潔に保たれるように、フロアやトイレ清掃は、こまめに行っています。	各フロアは換気や掃除が行き届き清潔に保たれている。壁には紅葉のはり絵やリース、クリスマスの飾り付けがされていることで、季節が感じられている。テーブルは利用者にあわせて配慮ある配置になっている。トイレの手摺りの持ち手が左右両方対応に設置されていることで利用者は使いやすく安心である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とは、別にソファがあり、気の合った利用者同士で、寛げる環境を用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた馴染の家具や小物、写真等を飾り、利用者個々のパーソナリティを確立できるよう配慮しています。	スツキリとした居室が多いが、馴染みの机、単品、化粧品入れ、本等を持ち込んだり家族の写真や趣味の作品等飾り居心地の良い空間造りがされている。当日趣味の継続としてぬり絵の作業を居室で楽しそうに行っている利用者の様子が見受けられた。ベッド、エアコン、カーテンは設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でできることは、やって頂けるよう支援し、自立した生活ができるよう心掛けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑って暮らそう、仲間だよね。」の理念は、各フロアをよく見える位置に貼り、職員一同、共有し、楽しく毎日を過ごして頂けるよう励んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦により、地域の祭りや保育園児との交流などが、中止となり、直接的な交流はありませんでしたが、地域の方とは、施設周りの清掃時、通勤途中や玄関先で、気軽に声をかけて頂くなど、良好な関係を築いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講座を開催することは、できませんでしたが、個々に認知症についてやグループホームについての質問や問い合わせには、丁寧に対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナ渦のため、運営推進会議を開催できず、FAX等での施設の運営状況を報告するにとどまりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は、電話や直接、区役所に出向いて相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で、身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、年2回の施設内研修を開催し、職員全員に周知徹底を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入社員には、必ず虐待についてのチェックリストを読んで学んで頂いています。年2回の研修が現場で生かされるよう、注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の施設内研修には、入れていないので、来年度には、研修を行いたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者である施設長が、利用者・ご家族様に説明し、理解して頂けるように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族様と気軽に意見交換できるような関係づくりに努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、リーダー会議や各フロア会議を開催し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映しています。日常的にも、気軽に話を聞いています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職員の悩み、要望、意見、問題等がないか、個々に聞くように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を利用し、個々のレベルアップを図るとともに、現場の中で、注意点や改善点を話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦の中、直接的な交流は、できませんでしたが、電話等でのやりとりは、できました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族様の話を良く聞き取り、書面にまとめ、事前情報を共有し、安心して過ごして頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談より、ご家族様のお話を伺い、質問に答え、その後、不明な点や質問等があった場合は、連絡下さいと伝えています。来所時には、気軽に会話できるような関係づくりを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談や、契約時には、本人の好きなこと、家族の希望等を聞き、その時々に必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることは、職員と一緒に行うよう取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族様の関係を大切に、ご家族が行って頂けることは、協力してもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦の中、直接的な交流は、できていませんでしたが、面会が可能になってから、少しずつ交流されています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流は、日常的に行われていますが、認知症状が進行している方が、みなさまと交流できるよう、職員が間に入って、コミュニケーションをはかる場面もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後でも、相談などの連絡がある場合は、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族とコミュニケーションをとり、可能なかぎり、本人の希望に添えるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや利用者、ご家族様との会話の中から、入居前の生活歴を共有し、記録しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、個々のペースで過ごして頂けるように配慮し、ご本人のできることは、楽しんで行えるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われるフロアミーティングで、利用者の状況等を話し合い、共有することで、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化でも、経過記録に記載し、日々の申し送りでも情報共有しています。フロアミーティングでの利用者のケアに対して見直しや確認を行い、計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな一日の流れは、決まっていますが、その時々に応じて、ケアの方法を変えたりし、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦の中、地域資源の活用は、困難だったため、行えていません。今後の課題とします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	FAXで、往診前情報をおかかりつけ医に情報提供し、往診後は、その日のうちに、各フロアスタッフと情報を共有し、ケアに反映しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携で、利用者の急変時に連絡し、必要な時は、駆け付けて頂いている。毎週1回の訪問健康チェック時には、体調の変化等の報告をし、対応や処置の方法など、アドバイスを貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを作成し、入院した利用者が、環境の変化に少しでも馴染んで頂けるように支援しています。早期に退院できるように、訪問看護師、かかりつけ医に状況報告を行いながら、入院先の担当者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケア・看取り研修を施設内外で受けながら、利用者、家族、かかりつけ医、訪問看護師、フロアスタッフ、管理者とその都度、話し合いながら、支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修会で、スキルの向上を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	被災訓練等を年2回行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けているが、職員全員で、今一度、振り返る必要があります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の会話の中で拾い上げたり、表出できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせるよう、日々努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣は、できるだけ本人の希望に沿うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調子のよい時は、利用者と一緒に、調理の下ごしらえや食器拭きを行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、毎日把握しており、毎日の申し送り時に、通常と違う場合は、ほかに変化ないかを観察し、報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科指導の下、食後の歯磨きを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が可能だが、継続して行えるよう、立ち上がりできるように足腰の筋力を維持できるよう、立ち上がりの生活リハビリを継続している。」		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の状況を把握し、不足している時は、好みの飲み物を提供して、飲んで頂けるように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置上、午前入浴となっていますが、どうしても難しい時は、本人の希望に合わせています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床は、利用者の希望に応じて、対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬は、毎回、処方箋が付いてくるので、各利用者ごとに、個人ファイルにとじて、情報を共有しています。変化があった時は、申し送りで報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の体操やゲーム、洗濯物のたたみ、みなさんが喜んで、行えることは取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の中、希望に添えないことが、多くありましたが、ご家族の協力で、馴染の美容室や床屋に行くことができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は、ご家族と相談して、お財布にお金を入れてあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望される方は、事務所にて、電話をかけてもらっています。ご家族からの電話も取り次いでいます。手紙等も同様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が清潔に保たれるように、フロアやトイレ清掃は、こまめに行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とは、別にソファがあり、気の合った利用者同士で、寛げる環境を用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた馴染の家具や小物、写真等を飾り、利用者個々のパーソナリティーを確立できるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分でできることは、やって頂けるよう支援し、自立した生活ができるよう心掛けています。		